

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(例)

【学 年】 小学校第4学年

【単元名】 式と計算の順じょ（9時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
A (7) ア (ア) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深めること。	A (7) イ (イ) 数量の関係に着目し, 計算に関して成り立つ性質を用いて計算の仕方を考えること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：加法の結合法則(2年) 加法や乗法の交換法則(2年)  
乗法の結合法則, 交換法則(3年) 分配法則(3年)

働かせる見方・考え方：左から順序よく計算すること, かけ算を先に計算すること, ( ) を先に計算すること。

段階	学習活動 (時間)	留意点
課題把握	1 一つの式の計算結果を見比べ, 事象に適した結果となっているのはどちらかを調べる。(1)	<p><b>学習意欲を高め, 学習内容の動機付けをする場面</b></p> <p>☞ ( ) を先に計算することを想起することで, 計算の順序に関するきまりに着目できるようにする。</p>
	2 2段階の計算を一つの式で表すことで, 加減と乗除がまじった式では乗除を先に計算することを知る。(2)	<p><b>知識・技能を習得する場面</b></p> <p>☞ 事象と計算結果を結び付け, 既習のきまりを確認するとともに乗除を先に計算することを指導する。</p> <p>☞ 乗除の式は ( ) を省くことを指導する。</p> <p>☞ 図を用いたり, 具体物等の個数と個数を表す式を検討したりするなどの場面を位置付けるようにする。</p>
課題追究 (調べる・考える)	3 分配法則が成り立つことを確かめる。(2)	<p><b>一般化する場面</b></p> <p>☞ 各法則を一般的に表すために, 各記号に具体的な値を当てはめて調べればよいことに気付けるようにする。また, 小数についても扱う。</p>
	4 ○, △, □などの記号を使って, 各法則が成り立つことを調べる。(1)	
課題解決 (まとめ)	5 式を読み, 式から考え方を説明したり, 加法や乗法の計算の順序を変え, 100 などをつくったりする。(2)	<p><b>活用する場面</b></p> <p>☞ 式が表す意味を考え, どのような考え方なのかを説明する場面を位置付ける。</p> <p>☞ 100 をつくることで処理が速くなることや, 誤答が減少することなどに気付けるようにする。</p>
	6 4, 3, 2, 1の数をこの順に使用して, 答えが0~9になるように式をつくる。(1)	<p><b>自分の学びを振り返る場面</b></p> <p>☞ 四則計算のきまりを自由に使えることを確認するとともに使った法則を自覚できるようにする。</p>

次単元へのつながり：式と計算（5年、各法則が小数でも成り立つこと）